

ポストコロナ時代の 感染症や病気との向き合い方

～何が変わり、どう対応すべきか～

日時 2020年

9月19日 土 14:00-17:00 (13:50~入室可能)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の脅威は衰えをみせず、いまだ収束の目途も不明なままです。緊急事態宣言の解除後、首都圏を中心に新規患者数が増え始め、第二波、第三波が懸念されています。第一波の経験を踏まえた備えが必要なのは明らかです。医療崩壊の危機が叫ばれるなかでの医療関係者の献身的な態度は、国民にコロナ罹患を予防するための自己管理の重要性、国民皆保険の大切さ、限られた医療資源の配分の問題とアクセスの重要性を広く浸透させました。他方で、罹患への不安は感染者や医療者への偏見も生み出しました。ウィズコロナ・アフターコロナ時代といわれる今、我々は感染症や病気とどのように向き合っていくのか、倫理学、患者、看護管理学、公衆衛生の立場から発言をいただき、参加者とともに議論をしたいと思えます。

ZOOMアプリを利用したインターネットオンラインライブ会議

* 事前申し込み制：定員200名 ZOOMによるオンラインセミナー

(申し込みをいただきましたらURLをお知らせします)

新型コロナウイルスの感染者への偏見、医療資源の配分をどう考えるか

朝倉輝一 (東洋大学教授、日本医学哲学・倫理学会)

ポストコロナ時代の賢い患者とは

山口育子 (認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)

COVID-19 患者対応に関する倫理指針の策定

佐藤美子 (川崎市立多摩病院副院長・日本看護管理学会)

新型コロナウイルス感染症がもたらした課題と今後の方向性

山本光昭 (東京都中央区保健所長 日本医療・病院管理学会理事)

座長：勝山貴美子 (横浜市立大学教授)、米本倉基 (藤田医科大学教授)

シンポジウム

「ポストコロナ時代の感染症や病気との向き合い方」

参加費：一般、高校生など 1000円

一般の申し込みは【電話】8月26日(水)9:30~9月15日12:00 045-787-8930

となります(詳しくは<https://www.yokohama-cu.ac.jp/ext/> をご確認ください)

日本医療・病院管理学会、日本看護管理学会、看護経済・政策研究学会の学会員の方は、専用URLから事前参加申し込みをお願いします。

共催：日本看護管理学会、看護経済・政策研究学会

後援：日本医学・哲学倫理学会

道徳的推論向上を目指した多職種連携教育(基盤C20K10661)と共催です

横浜市立大学地域貢献センター

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2(金沢八景キャンパス内)

TEL:045-787-8930 FAX:045-701-4338 Email: exten@yokohama-cu.ac.jp

受付：月曜日～金曜日(祝日を除く) 9:30～16:30

ウェブサイト <https://www.yokohama-cu.ac.jp/ext/>

お問合せ



【プログラム】

14:00-14:05(5) 開会の挨拶(趣旨説明)

座長: 勝山貴美子(横浜市立大学看護管理学教授)

米本倉基(藤田医科大学医療経営学教授)

14:05-14:30(25)

講演1 倫理の立場から

新型コロナウイルスの感染者への偏見、医療資源の配分をどう考えるか

朝倉輝一(東洋大学教授、日本医学哲学・倫理学会)

14:30-14:55(25)

講演2 ポストコロナ時代の賢い患者とは

山口育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)

14:55-15:20(25)

講演3 COVID-19 患者対応に関する倫理指針の策定

佐藤美子(川崎市立多摩病院副院長・聖マリアンナ医科大学、日本看護管理学会)

15:20-15:45(25)

講演4 新型コロナウイルス感染症がもたらした課題と今後の方向性

山本光昭(東京都中央区保健所長 日本医療・病院管理学会理事)

15:45-16:00 休憩

16:00-16:50 シンポジウム

16:50- 挨拶 鶴田恵子(聖隷クリストファ大学教授)

【講師経歴】(敬称略)

朝倉輝一 (東洋大学法学部教授 日本医学哲学・倫理学会)



1959年名古屋市に生まれる。東洋大学大学院文学研究科博士後期課程哲学専攻単位取得退学。2002年3月、東洋大学にて博士乙(文)第60号取得。2008年から沖縄大学准教授、2010年から現職。主な著書として、『討議倫理学の意義と可能性』法政大学出版局(2004年)

「老いるということ」『東洋法学』62(3) pp.385-405 2019年

「地域包括ケアシステム」と討議倫理—自立と連帯の観点から『現代社会研究』(15),pp. 5-13 2018

「老い・自律とvulnerability—討議倫理的視点から」『東洋法学』61(3) ,pp.453-473 2018年3月など

山口育子 (認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)



大阪市生まれ。自らの患者体験から、患者の自立と主体的医療への必要性を痛感していた1991年11月COMLと出会う。活動趣旨に共感し、1992年2月にCOMLのスタッフとなり、相談、編集、渉外などを担当。2002年4月に法人化したNPO法人ささえあい医療人権センターCOML(<https://www.coml.gr.jp/>)の専務理事兼事務局長を経て、2011年8月理事長に就任。活動の一つである電話相談には緊急事態宣言のあと100数十件の相談が寄せられた。

著書に「賢い患者」岩波新書がある。<https://www.iwanami.co.jp/book/b369936.html>

佐藤美子 (川崎市立多摩病院副院長 日本看護管理学会)



伊東市生まれ。東京女子医科大学大学院修士課程看護管理学修了。2012-2014年 福島県立医科大学看護学部准教授、2015年より現職。大震災及び福島県原発事故後の看護者の就業継続のための支援に関する研究(挑戦的萌芽研究)を行った。新型コロナウイルス(COVID-19)の流行が深刻化する中で、専用病床を確保し、感染拡大の防止やできるだけ多くの人命を守る対策を講じているがこの非常事態下において地域住民のみならず診療の最前線に立つ医療ケアチームも多大な心理的・身体的負担・倫理的葛藤を抱えていることに対し、病院としての社会的使命を最大限果たすべく、病院独自の倫理指針を提示し、HPに公表を行った。

山本光昭 (東京都中央区保健所長 日本医療・病院管理学会理事)



1960年横浜市に生まれる。1984年神戸大学医学部卒業後、旧厚生省入省。旧厚生省各課、環境庁、横浜市、広島県を経て、2002年茨城県保健福祉部長、2005年内閣府参事官(ライフサイエンス担当)、2007年独立行政法人国立病院機構本部医療部長、2012年独立行政法人福祉医療機構審議役、2014年厚生労働省近畿厚生局長、2017年兵庫県健康福祉部長などを歴任し、現職。